

# 日本リスク研究学会誌原稿作成要領

1989年 6月24日制定  
2008年 3月 改訂  
2008年12月19日改定  
2010年 7月 8日改定  
2010年10月19日改定  
2011年 1月11日改定  
2011年 5月 2日改定  
2011年 8月16日改定  
2014年 6月10日改定  
2015年 3月10日改定  
2015年 5月23日改定

1. 原稿は和文または英文とし、和文の場合は英文の表題、著者名（ローマ字書き、フルネーム）、英文要旨、Key Words、著者の所属（和文と英文）を第1頁につける。ただし、**投稿原稿は査読用に著者名と著者名の所属を記載しないこと。**
2. 和文原稿はなるべく当用漢字および現代かなづかいを用い、口語体とする。和文原稿中の外国語はできるだけ和訳し、不必要に外国語を用いることはさける。外国語を用いる場合はすべて半角表示すること。
3. 英文原稿の書式については学会誌の英文論文を参照すると共に、編集委員会と相談することとする。
4. 英文表題の表記は、単語頭を大文字とする。例) Title of Risk Analysis
5. 図表はレイアウトしたものと別は、エクセルやパワーポイントなどの元データも提出すること。
6. 表の表題はその上方に、図・写真の表題は下方に、両者の注記、説明等はすべて表題の下方に記載すること。論文各種については、図表の表題は英文とする。
7. キーワードは英文で**3個以上5個以内**とする。ただし、各一個のキーワードは各3語以内とする（例、risk communication）。
8. 本文中の引用は「著者名（西暦年）」とし、同著者で同年の文献がある場合は小文字のアルファベットをつける。英語あるいは日本語の文献においても**括弧（ ）および年数はすべて半角表示**にする。引用文献には番号を振らないこと。

単著の場合：池田（1987）、Baumol（1988a）、Baumol（1988b）

二人の連名の場合：池田、坂下（1986）、Gist and Mott（1988）

三人以上の連名の場合：池田ら（1988）、Gist et al.（1989）

括弧内に表記する場合：…といわれる（池田，1999）。

括弧内に表記する場合で、複数の文献を並べて引用する場合（セミコロン（；）で区切る）

：（池田ら，1988；Gist et al.，1989）

9. 参考文献は本文の最後に、和英文献を一括でアルファベット順に並べる。掲載誌名の略記は慣例による。番号は振らないこと。

著者名（西暦年）文献名、掲載誌名、巻（号）、開始頁-終了頁。

例) リスク太郎，日本太郎，日本花子\_(2009)\_タイトル，日本リスク研究学会誌，20(1)，1-4。

注1) 「 」と文内の「，」「。」は全角のこと。英数字は半角。

注2) 和文内の半角の中黒「・」は用いない，全角の中黒とする。

注3) 巻数はボールドとする。

注4) 英和文内の英数字は全て半角のこと。文献表題は、冒頭以外の単語は、固有名詞等大文字を使うことが慣例的である場合以外は、小文字で始めること。

注5) 著者氏名内では「&」は用いず「and」とすること。文献の「&」については、その標記に

従う。

- 注6) (西暦年) ( ) 前後に半角スペースを入れること。  
注7) 書名およびジャーナル名はイタリック、巻数はボールドとする。  
注8) 「,」 「( )」 「」 についても、半角で統一する。

(和文参考文献) \_ は半角スペースを表す。

- 例) 池田太郎 (1987) リスク評価に関する研究, 日本リスク研究学会誌, **10**(4), 55–60.  
池田太郎, 坂下次郎, 北畠花子 (1988) リスク認知に関する研究, 日本リスク研究学会誌, **11**(3), 87–92.  
池田太郎 (2005) リスク評価に関する研究, 池田太郎 (編) リスク認知, ○○大学出版会, 83–110.  
NRKG (2008) 平成19年度リスク評価事業成果報告書. 平成20年3月.  
(ウェブ上で入手した場合)  
NRKG (2008) 平成19年度リスク評価事業成果報告書. 平成20年3月, [http://www.jst.go.jp/risk\\_h22.pdf](http://www.jst.go.jp/risk_h22.pdf) (アクセス日: 2012年6月29日)

(英文参考文献) \_ は半角スペースを表す。

- 例) Ikeda, T., Sakashita, J., and Kitabatake, H., (2000) Risk perception, *Risk Analysis* **5**(11), 181–194.  
(DOIがある場合)  
Ikeda, T., Sakashita, J., and Kitabatake, H., (2000) Risk perception, *Risk Analysis* **5**(11), 181–194. DOI: 10.1177/0011392114559849  
EU Council (1999) Report on risk perception study - 93rd Agriculture and Fisheries Council Meeting (Luxembourg, 22–23 October, 1999)  
Raiffa, H. (1985) *The Art and Science of Negotiation*. Cambridge: Harvard Univ.

10. 参考文献にURLを記載する場合、URLの下線は外すこと。参考文献内のURL記載は、該当する文献情報の最後に「, [\\_http//www.……](http://www.……)」 とつける。また、最後にアクセス日を明記する。DOIがある場合、できるだけDOIも併記する。
11. 参考文献内の、「-」(全角ダッシュ)は、「\_」(半角スペース+半角ダッシュ+半角スペース)で和英文中ともに統一する。
12. 脚注は認めない。
13. 謝辞は、掲載決定後に記入する。
14. 投稿原稿は、以下の要領でA4用紙に表題、著者名、英文要旨、本文、図表、参考文献等を割付したものを送付すること。  
割付は2段組、40行、各行22字詰めであり、本文のワープロのテキスト・ファイルのサイズは22字×最大600行とする。

上端マージン=25 mm 下端マージン=35 mm

右端マージン=15 mm 左端マージン=15 mm

また、図表の割付けしたものよりさらに約80%縮小されることに注意すること。

第 1 頁	最終頁
<p>1 【原著論文／総説論文／資料論文】</p> <p>2 論文表題</p> <p>3 英文表題</p> <p>4 姓口名<sup>*</sup>、姓口名<sup>**</sup></p> <p>5 Mei SEI and Mei SEI</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9 Abstract. .... (英文要旨 100-150 字程度)</p> <p>10</p> <p>11 Key Words: (3-5 種類)</p> <p>12</p> <p>13 本文 (1 行 22 字)</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p> <p>19</p> <p>20</p> <p>21</p> <p>22</p> <p>23</p> <p>24</p> <p>25</p> <p>26</p> <p>27</p> <p>28</p> <p>29</p> <p>30</p> <p>31</p> <p>32</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>35</p> <p>36</p> <p>37</p> <p>38</p> <p>39 * 所属 (所属の英文)</p> <p>40 ** 所属 (所属の英文)</p>	<p>1 本文</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p> <p>19</p> <p>20</p> <p>21</p> <p>22</p> <p>23</p> <p>24</p> <p>25</p> <p>26</p> <p>27</p> <p>28</p> <p>29</p> <p>30</p> <p>31</p> <p>32</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>35</p> <p>36</p> <p>37</p> <p>38</p> <p>39</p> <p>40</p> <p>本文</p> <p>謝辞</p> <p>参考文献</p> <p>付録 (あれば)</p>

※脚注は認めない。

15. 学会誌の割付例 (サンプルファイルが学会のサイトからダウンロードできます)

※新規投稿時の際は投稿方法・投稿規程を熟読の上、ファイルをダウンロードしてそれをもとに作成しご投稿下さい。